

児童・生徒の現状・課題

本校児童は学習意欲の二極化が見られ、家庭学習の習慣化にも改善が見られる。一方で、基礎・基本や技能の定着が不十分で一時的な理解にとどまる児童が多く、自己効力感の低さが課題である。そのため、学校内での丁寧な振り返りや個に応じた関わりを強化し、確実な定着を図る指導が不可欠である。

**学び続ける力を育むための重点目標**

○基礎・基本の確実な定着と学習過程の振り返りを通して、「できる」実感を深め、粘り強く前向きに学び続ける力を育む。

**児童生徒調査**

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	97%	100%	
②授業のはじめには、これまで学習したことを振り返ったり、取り組むかだいやめあてを確認したりしている。	97%	100%	

教員調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	94%	100%	
②児童生徒が自分で計画を立てて学習をすすめる力を育むため、授業や家庭学習等において、手立てを講じたり、指導したりしている。	100%	100%	

具体的な手だて①

短時間の復習(スモールステップ)を取り入れ、本時のめあてと学習の流れを明確にした「わかる・できる」授業づくりを展開できるようにする。

具体的な手だて②

ICT 端末やプリント等を活用し、児童自身が習熟度や興味に応じて学習方法・課題を選択し、主体的に取り組む場面を設定する。

具体的な手だて③

授業内での反復学習や家庭での宿題を通して、自分でくり返し取り組むことで「できた」という成果や成長を振り返る場面を設定し、粘り強く学ぶ姿を承認・評価することで次の学習への意欲につなげる。

**校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫**

今年度も全教員で「100 実践」の授業公開と相互参観を実施し、即時的なフィードバックを実施する。さらに、教員のニーズに応じた OJT 研修を一体的に展開することで、日頃の疑問や課題を解決し、授業改善が日常的に循環する校内体制を確立する。

総括(5月)

今年度の全国学力調査においても全国平均を上回り、昨年度の授業改善の成果が表れている。一方で、児童の学習意欲には二極化が見られ、日常の単元テスト等では既習事項の定着不足も確認される。今後は、放課後学習等を有効活用した予習・復習の充実により全体の底上げを図るとともに、児童自らが学び方を選択し、粘り強く主体的に学習を進める授業改善を継続していく。

総括(1月)

児童・生徒の現状・課題

学習への意欲は高く、課題に取り組むが、できないことがあると諦めてしまったり、次の手だてを取ったりすることができない。どこができていないのか、どうすればよいのかを振り返って考えられない。

**学び続ける力を育むための重点目標**

○子どもたち自身が、自らの学びを自ら進めるという意識を高め、理解度や進捗を振り返りながら学習できるようにする。

**具体的な手だて①**

学習内容や学習計画を単元の初めに示し、見通しをもたせる。

具体的な手だて②

単元の途中や1時間の途中で振り返る場面を設定し、理解度や進捗状況を自ら確認し、修正しながら学習できるようにする。

具体的な手だて③

共に学習する仲間、学習する場所、ツールなど、目的に沿って、自ら選択できる場面をどの教科においても毎時間設定する。

**校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫**

- ・研究の Classroom をつくり、日々の実践や意見、相談を日々書き込めるようにする。
- ・管理職の授業観察の際は、指導案を教員にも配布し、授業を互いに見合う機会をつくる。

※肯定的回答の割合(%)

児童生徒調査	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	80.3	85.0	82.5
②学習をしてもできるようにならないときは、学習の方法を工夫している。	72.5	75.0	78.5

教員調査	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	83.3	85.0	90.5
②学習をしてもできるようにならないときは、どうすればよいか、見通しをもたせている。	84.0	85.0	78.5

総括(5月)

全国学力学習状況調査の結果を見ても、無回答という児童が10%程度おり、最後まで粘り強く取り組むという力が弱い。それは、授業において、受け身的な授業が多く、児童自身に目標や目的がない状況であることや、自ら学び方を選択しながら学ばせることができていなかったことに課題があるからではないかと教員から声が上がった。そこで、日常の授業において生徒に選択させる場面を設定すること、そのために必要な手だてを教員がしっかり準備することを授業改革の芯に据えた。

総括(1月)

教員の意識としては、児童に選択させる場面を設定し、授業改革は推進されている。しかし、児童自身が自ら計画を立てて学習できているという自覚は、教員の意識ほどはない。教科によって、単元によっては、もっと児童に計画を立てさせ、またそれを振り返らせる場面を設定していくことが必要である。分からない問題やできないことをへの対処方法についても手だてが必要である。